

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット/桜ユニット)

事業所番号	2770106918		
法人名	医療法人錦秀会		
事業所名	グループホーム清泉		
所在地	堺市南区豊田1748番地2		
自己評価作成日	令和3年10月	評価結果市町村受理日	令和3年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和3年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①母体の医療法人と連携を取り、医療・福祉サービスを総合的に提供しています。
- ②職員のスキルアップを図るために法人内・外部・事業所内研修を積極的に行い、資格取得のための支援をしています。
- ③「ISO9001」の認証を取得し、さらなる資質の向上、利用者・家族の満足度を目指しています。
- ④協力医療機関の医師・看護師との連携により、看取りケアを実践し最後までその人らしく生活出来るよう支援しています。
- ⑤毎月家族様に健康状態や、日々の生活の様子を写真と共に送っています。
- ⑥風光明媚な場所にあり、四季折々の季節を感じる事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人錦秀会の阪和第一泉北病院の広い敷地の一角に建つ、平屋の2ユニットのグループホームである。コロナ下で外出制限の中でも中庭を利用して、散歩や外気浴、菜園の世話などの活動が普通にでき、おかげで、下肢筋力の低下もないと家族から喜びの声が聞かれた。ISO9001取得により、研修や、事故報告からすべての取り組みにPDCAサイクルが機能している。病院が母体で管理者も看護師であり、医療面は万全で看取り介護も積極的に行われており、本人、家族、職員の安心材料になっている。職員は全員が正職員で、勤続年数の長い人が多く認知症ケアに必須の馴染みの関係づくりが良好で、質の高いサービスの元で入居者は穏やかに暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「やさしく生命をまもる」をふまえ、事業所理念「その人の生きる力を支援する」を掲げ、職員全員と共有しその実践に取り組んでいます。	法人理念、事業所運営方針ともにパンフレット、ホームページ、重要事項説明書に記載し公開されている。事業所内では壁に貼って、入職時に説明するほか折々の会議の時に話題にして、実践を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方のボランティアの受け入れ、近隣の保育所、中学生の職場体験など、小学校・支援学校などへの啓発活動を通して、地域との交流を図っています。(最近はコロナ禍により行えていません)	以前はいろいろな交流があったが、現在は皆無である。唯一、近くの保育園が園児達の手形を小人に模したような、可愛い壁絵を敬老の日のプレゼントに届けてくれたそうで、リビングの壁に貼られていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南区内の事業所と連携して、小学校・支援学校・地域住民に向けて、認知症の啓発活動を行っています。(最近はコロナ禍により行えていません)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者は、地域の自治会代表・地域包括・他事業所の施設長・家族様は毎回5名ほど出席され、貴重なご意見を頂いています。議事録は家族様全員に送付し、意見がサービス向上に繋がる様取り組んでいます。(コロナ禍で人数制限しています。)	コロナ禍のここ2年間であっても緊急事態宣言が発出されていないときは小規模にして開催されており、宣言下は書面開催にして議事録はいずれの場合も家族全員を含む出席メンバーに送付している。内容は行事、事故、ヒヤリを含む入居者のこと、研修の報告などでご意見欄をつけている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的で開催している南区GH連絡会に、基幹型地域包括支援センターから担当者の出席があり、市からの情報を頂いたり、地域への啓発活動を協力して行っています。最近はコロナ禍により書面や、FAXでのやり取り、中止の時もありました。	コロナ関連の市からの連絡は主にメールであり、書類は郵送で不明なことは問い合わせをしている。南区グループホーム連絡会が最近になって、再開されて情報交換に役立っている。生活保護は対象者がないので連携はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は年2回行い、新入職者に対しては入職時に行っています。組織全体で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠は安全上電気錠を設置していますが、中庭へは見守りながら出入り出来るようになっていきます。毎月のミーティングで身体拘束になるような行為はないか確認しています。	指針はホームページで公開されている。適正化委員会は内容が全職員に周知されていること、研修は年2回実施されて記録されている。建物は平屋で2ユニット間の行き来ができ、敷地が広く中庭だけで、十分な活動ができるため閉塞感は感じられない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同時に虐待に関しても研修を行っています。入居者様に対する態度・言葉使いなど、管理者・ユニットリーダーを中心に、注意を払い指導しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在施設内において対象者はいませんが、今後研修の機会を設けたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約には、時間をかけ十分に説明させて頂いています。料金の改定時は、運営推進会議を中心に説明を行い、不参加の方にも個別に連絡をとり書面にて了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議で意見や要望をお聞きしています。面会時は必ず声かけし、現在の生活状態を報告させて頂き、要望や意見があればお聞きしています。コロナ禍により書面での通知、少人数での開催となりました。	通常は運営推進会議に家族の参加が多く、意見も活発に交換されている。緊急事態宣言解除後の現在はいち早く面会制限も緩和されている。毎月個人の様子を知らせる便りを送ることは家族の安心にもなり、満足度は高い。もう少し散歩させてほしいというような個別の要望にはできる限り応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングなどで意見や提案を聞き、必要に応じて法人の運営会議に議題として提案しています。	フロア毎のミーティングで運営のこと、ケアに関する話を話し合っている。全員が正職員であり、業務担当制でISOに関連する取り組みも多くあり、運営に関与している意識は高い。個人目標管理のために定期的に管理者と面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課の際面接を行い、目標管理制度に基づき評価を適正に行い、昇給昇格に反映しています。また研修の機会を設け、個々のスキルアップを目指し、やりがいに繋げる様支援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISOにおける法人内の研修・外部・内部・インターネット研修など積極的に参加しています。また伝達講習を行い知識・技術の向上に努めています。資格取得を推奨し勤務調整を行い参加し易い環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	堺市・南区などGH事業所の連絡会・研修などに参加し、活動を通じてお互いサービスの質の向上に繋がる様取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談開始時期は、本人の要望、本人が応え難い場合など家族様から充分お聞きし、不安の軽減に努め、信頼関係が築けるよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するにあたり家族様が不安に思っている事、要望など充分にお聞きし、納得して頂けるよう信頼関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としているサービスを家族様・本人と相談し、必要なサービスを提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で本人が出来ることを見つけ、役割を持って頂き、職員と協同行うことが出来る様な関係をこころがけています。レクや、外出・外食を共に楽しみながら生活することで、絆を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より家族様の思いを聴けるような雰囲気作りをこころがけ、共に本人を支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの深い人との面会や場所をお聞きし、外出支援をしています。コロナ禍により外出は出来ていませんが、思い入れのある食べ物など、手作りで作っています。	緊急事態宣言が先月解除されたので面会制限をいち早く解除し、家族など馴染みの人と会うことができるようになった。通院以外の外出はまだできないが、ひ孫の写真をよく送ってもらう入居者にはファイリングして見やすくするような支援をしている例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で、ピアノ演奏する人や、歌う人など役割を持って一緒に歌ったり、レクリエーションなどで利用者同志で係る機会を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され入院が長期になった場合など、時折面会し状況を見守っています。また必要に応じて相談支援は行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネ・受け持ち担当を中心にその人の思いを探り、職員全員で把握しながら、家族様とも相談し、ケアに反映できるよう努めています。	職員は全員常勤で、勤続年数の長い人が多く、かつ利用者担当制(1:1)なので、思いや意向は把握しやすいといえる。思いの表出が困難な人には推測したり家族に相談して最良の方法を検討している。結果は記録に残し会議で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族様・以前利用していた事業所などから情報を得て、これまでの暮らしを捉え、これからの生活に反映出来るよう努めています。必要に応じて入居前に家庭訪問させて頂き、それまでの生活環境や暮らし方を把握し施設での生活に生かせる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	受け持ち担当を決め、ユニットリーダー・ケアマネと共に、本人の出来る力を発揮される様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を中心に、本人や家族様の要望をお聞きしながら、介護計画を作成しています。また毎月モニターリング・ユニットミーティングを行い、その都度見直しを行い必要時介護計画の変更をしています。	介護計画書のサービス内容はタブレット端末のソフトで見ることができ、1項目ごとに毎日できたかどうかを確認するシステムなので、介護計画に即したケアが実行されているといえる。計画書の更新時には家族にできるだけ、来所してもらって意見を聞くようにしていたが、今は電話や書面によることが多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様個別に毎日ケアプランに添って記録しています。それを職員間で共有し、家族様・本人の思いをくみ取りプラン見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を重要視しながら、計画作成者を中心に本人の思いをくみ取り、家族様・職員間で話し合い柔軟な支援ができる様取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽会やミニコンサートなどのボランティアを受け入れ、暮らしを楽しむことができる様支援しています。(コロナ禍により現在行えていません)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の希望があれば、引き続き往診できる様支援しています。基本的には協力医療機関の往診を月2回・訪問看護を随時行い健康管理を行っています。	協力医療機関のクリニックから月2回の往診・歯科は月1回の往診を受けている。専門医療機関は基本は家族付き添いであるが、家族が無理な場合耳鼻科皮膚科など職員が受診支援をしている。クリニックと母体病院と24時間の医療連携が構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より定期的な訪問看護を行っており、異常時は報告し早期に対応し健康管理に努めています。また管理者が看護師であり、日常の健康管理に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院したらサマリーを作成し、細かな情報を医療機関に提供しています。また随時訪問し、必要時カンファレンスや、Drとの面談に家族様と同席し、早期に退院できる様医療機関と連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期のケアについては、入居時に説明しています。看取りの希望があれば、そのときに看取り同意書を交わし、施設で出来ることを十分に説明しています。また職員の研修も行い、協力医療機関の医師・看護師・家族様と協力し、穏やかな最期が迎えられよう、職員一同で支援しています。	入居時に重度化や終末期ケアについて説明入居者・家族と話し合い同意書を交わし、状況状態変化時は医師から再度説明、同意書を交わし事業所で出来ること出来ない事を確認。研修・マニュアル・看取りケアプランがあり、看取り希望時は協力医療機関と職員のチームケアで穏やかな最期を支援している。看取り実績は数多く、家族に感謝されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時に備えてAEDや急変時の対応について研修を行っています。また管理者が看護師として随時その都度指導しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・災害訓練を行っています。隣接する病院の大規模災害に参加し、協力体制を整えています。備品については施設でも食料品・ランタン、ガスコンロやボンベ、水など準備をしています。	コロナ禍で消防署の立ち合いはないが年2回消防避難災害訓練を行っている。地域住民参加は立地的に難しいが、地域に住む職員や隣の系列病院の防災センター職員や病院事務職員の協力体制が整備されている。職員連絡網を整備し、備蓄用品は3日分完備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的マナー、心得を各個人に対して面接時に判定記入してもらい、常に念頭においてケアできる様指導しています。不適切な言葉使いなどがあれば、その都度注意しています。	高齢者の尊厳とプライバシーに配慮し、声かけの仕方・言葉使いは接遇研修と現任教育で互いに確認し合っている。トイレにいきたい希望が頻回で転倒不安の方は常により添い、いった時間や回数を紙面に書いて説明を繰り返す等、その方の尊厳と誇りを損ねない声かけやタイミングで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日など、行きたい場所や、食べたい物などをお聞きし、外出に同行しています。居室で過ごしたい方には本人の意思を尊重し、自由に過ごして頂き自己決定できる様支援しています。家族様への面会や電話など希望があれば取り次いでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや体調に合わせて一日過ごせるよう、コミュニケーションを図りながら支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で髪を染めたい希望があれば、訪問理容に依頼しています。起床時には身だしなみを整え、好きな服が選べる様声かけしています。お化粧の希望の方は家族と相談して化粧用品を購入して頂き支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立・食材は業者に依頼しているが、栄養面は充分管理されており、献立もバラエティに富んでいます。ご飯は温かい炊き立てを提供している。時折、職員の手作りを追加しています。個人の能力に応じて、配膳・下膳・食器洗いなど行っています。	昼・夕食は業者から調理品が届き湯煎、各ユニットでご飯を炊いている。朝食と季節行事や誕生日会は職員が買い物をし、ちらし寿司や豪華な手作ケーキを作っている。入居者が材料を切る手伝い等して時々揚げたての天ぷらを食べ、片付けも数人がされている。月1回は広い庭で炭火で焼き芋・バーベキュー・カフェタイム・夏はスイカ割りを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の健康状態に合わせて、食事の形態や水分量を考慮しています。水分量・食事を毎日チェックし、健康管理に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前後のうがい・口腔ケアを行い清潔に努めています。隣接する病院の歯科衛生士・医師の検診を毎月受け、必要時は受診し治療を行っています。義歯は夜預かり毎日ポリドントを使用し清潔に保っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に応じてトイレ誘導を行っています。自力でトイレに行かれる方もそっと見守りし、失敗しても直ぐに対応出来るように支援しています。歩行困難の方もトイレで排泄出来るよう介助しています。	一人ひとりの時間に合わせてトイレに付き添い転倒予防に留意してケアしている。自立の方は一人で、殆どの入居者はトレーニングパンツとパットを併用。個々の排泄リズムを把握して声かけ誘導して便座を使用している。睡眠妨害にならないよう配慮し、夜間も居室横のトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の排便間隔を把握し、トイレでの自然排便を促しています。頑固な便秘の場合身体に悪影響が及ぼすのを考慮し、下剤や浣腸を行っています。サツマイモなど繊維の多い物をおやつに取り入れて提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回～3回のペースで一人ひとりゆっくり時間をかけて入浴して頂いています。重度になってもシャワーキャリーを使用して個々にあった支援をしています。	平均週に2～3回は入浴。風呂を嫌がる方が多く入浴までの時間がかかるが、足湯から始めて浴槽にゆったり浸かってもらい「気持ちいい」と言われている。重度の利用者もシャワーキャリーでシャワー浴や2人介助で浴槽に浸かるなど、終末期の方も直前まで入浴している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の身体の状態を見極め、午前・午後短時間でも臥床して頂いています。また本人の希望があれば居室でゆっくり過ごして頂いています。夜間は静かな環境で眠れるよう配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋と照らし合わせ、用法など確認しながら服薬準備を複数で行っています。服薬時は本人と薬の名前を確認して誤薬の防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽の好きな方にはDVDをながしたり、カラオケで好きな歌を唄って頂いています。また一緒に野菜を育て収穫し、天ぷらにしたり、焼いたりして昔を思い出しながら、気分転換が図れるよう支援しています。毎日洗濯物を畳んでいることが張り合いになっている方もいます。おやつが楽しみの方には個別に提供し楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	面会時家族様による散歩・外食など自由にさせて頂いています。年数回は日頃行けない場所にも出かけられる様、家族様の協力を得て支援しています。現在コロナ禍により外出は自粛しています。	コロナの感染状況で外出の機会を増やして行くことはできなかった。現在は事業所を囲む広い庭を回って散歩したり外気浴は毎日出来ている。洗濯物干し取り入れ、車椅子で庭の散歩ができる。大きな桜の木があり花見や紅葉狩り、天気の良い日は庭でおやつタイム、菜園の手入れ等生活リハビリを継続している。	前回調査時に外出の機会を増やすことを目標達成計画にあげたが、コロナ禍のために達成できなかった。今後コロナの状況がよくなれば、再度取り組むことを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には盗難や管理困難を危惧し家族様管理とさせて頂いています。どうしても持ちたいと強い希望があれば少額を持って頂いています。毎日お金を数える事が習慣になっている方がおり、それが生きがいとなり安心されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の希望の方は、所持して頂いています。取次ぎを支援し家族様と居室で自由にお話して頂いています。公衆電話を設置し何時でもかけれるようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は自由に行き来し寛げる空間になっています。居間からは広びろとした中庭が見えるようになっており、四季折々の季節感を味わって頂けるよう工夫しています。	各ユニットに広い玄関フロアが有り中は回廊で行き来できる。玄関・リビングに空気清浄機を設置、季節の花を飾りリビングルームや廊下から中庭が見え季節を常に感じられる、懐かしのメロディが流れていた。保育園から届いた子供達の手形で運動会らしい大きな壁紙が飾られていた。一日数回の清掃・換気など感染対策を徹底している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は一人であったり数人であったりと、自由に寛げるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使い慣れた家具や好みの小物などを持ってきて頂いています。また仏壇を置き写真などを飾っています。居室は清潔をこころがけ、布団やマットなどは週1回は干し、気持ちよく休んで頂けるようにしています。	和室と洋室がありエアコン・洗面所・クローゼット・防災カーテン・ベッドと居室横に個別のトイレを設置。馴染みの筆筒・机に書籍を並べたり仏壇持ち込みもあり、自分好みに配置されている。全ての居室から中庭が見える。毎年居室で家族と花見をされる入居者もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室など、その人に合った手すりなど随時取り付けています。居室入り口には個別の名前を掲げわかり易いように工夫しています。		